

作物名	適用雑草名	使用時期	10a 当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	クイジムを含む農薬の総使用回数	
			薬量	希釈水量				
にんじん	一年生 イネ科雑草	雑草生育期 (イネ科雑草 3~5 葉期) 収穫 40 日前まで	50~ 75 ml	100 ㍓	1 回	雑草 茎葉 散布又 は全面 散布	1 回	
にんにく		雑草生育期 (イネ科雑草 3~5 葉期) 収穫 30 日前まで			2 回以内		2 回以内	
アスパラガス		雑草生育期 (イネ科雑草 3~5 葉期) 収穫前日まで			1 回		1 回	
ひまわり (種子)		雑草生育期 (イネ科雑草 3~5 葉期) 収穫 30 日前まで	75 ml		4 回以内 (1 年間に 2 回以内)		4 回以内 (1 年間に 2 回以内)	
かのこそう		雑草生育期 (イネ科雑草 3~5 葉期) 収穫 45 日前まで						6 回以内 (1 年間に 2 回以内)
おうぎ		雑草生育期 (イネ科雑草 3~5 葉期) 収穫 30 日前まで	50~ 75 ml		15 回以内 (1 年間に 3 回以内)		15 回以内 (1 年間に 3 回以内)	
とうき		雑草生育期 (イネ科雑草 3~5 葉期) 収穫 14 日前まで	75 ml		9 回以内 (1 年間に 3 回以内)		9 回以内 (1 年間に 3 回以内)	
だいおう					3 回以内		雑草茎 葉散布 又は 全面 散布 (落水)	3 回以内
甘草								
いぐさ	水田一年生 イネ科雑草	落水後雑草生育期 (イネ科雑草 3~5 葉期) (入水 15 日前まで)						

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 散布液の調製に当たっては、使用の直前に本剤の所定量を所定量の水にうすめ、よくかきまぜてから使用すること。
- イネ科雑草優占のほ場で使用すること。広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用すること。
- 展着剤を加用するとより一層効果的である。
- イネ科雑草の生育期に有効であるが、雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、時期を逸しないように均一に散布すること。
- 雑草茎葉にかかるよう、まきむらのないよう均一に散布すること。
- やや遅効性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常 1 週間から 2 週間前後を要するが、スズメノカタビラに対してはさらに期間を要する場合があるので、誤ってまき直しなどしないように注意すること。
- イネ科作物には薬害をおこすおそれがあるので、周囲にイネ科作物がある場合は、薬剤が飛散しないように注意すること。
- 激しい降雨の予想される場合は使用をさけること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないよう注意すること。
- ❖ 原液は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 危険物第 4 類第 2 石油類に属するので火気には十分注意すること。
- ❖ 保管：火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管すること。